

3 調査日誌

A 第10次発掘調査 6AA0区P・Q・R地区 6ABB区C地区

1962年7月11日～11月27日

7・11～24 耕土除去

7・25～31 地区設定、床土除去。調査地域中央付近では暗褐色の整地土の上に遺構がある。

8・1 R地区の東南隅から遺構検出開始。東西溝(SD487)と、それに北接する東西築地(SA488)とを検出。C地区の東から遺構検出開始。東西溝(SD487)の西延長部分を確認。東北～西南方向に斜行する溝(SD503)を検出。

8・2 R地区の東西築地(SA488)・東西溝(SD487)を追求。SD487の南で掘立柱の掘形2カ所(SA486)を検出。東西築地(SA488)の北、厚い整地土上面で、2列の東西柱穴列(SB501)を検出。C地区の斜行溝(SD503)は深さ約1.7m。底まで黄灰色粘土をかたくつき固めて埋めている。

8・3 R地区の東西溝(SD487)の埋め土上部には多量の瓦が含まれている。東西築地(SA488)もさらに西へつづく。掘立柱の掘形5間分(SA486)を検出。東西柱穴列を東西棟建物(SB501)と推定した。C地区の中央付近で南北柱穴列4間分(SB497)と、それに一部重複する柱穴列(SB498)とを確認する。後者は前者より新しく、雨落溝をともなっている。

8・4 R地区で東西棟建物(SB501)の南廂7間分を確認。床束穴らしきものがある。C地区南北柱穴列(SB497)は斜行溝(SD503)より新しく、東西溝(SD487)の埋土におおわれている。

8・6 R地区の東西棟建物(SB501)の西妻の柱穴列を確認し、5間×2間の身舎の四面に廂がつくことが判明。この建物の西半に重複して、南北棟建物(SB502)の掘立柱の掘形を認める。この南北棟建物の方が新しい。東西棟建物(SB501)の西妻の柱穴列の西4.5mに南北塀(SA505)の東雨落溝がある。C地区で南北棟建物(SB497)の西側柱と推定される柱穴列検出。東西溝(SD487)は、この地区の西端までつづく。

8・7 R地区の南北棟建物(SB502)は桁行5間で、東廂がある。C地区の南北棟建物(SB497)の柱穴は東西溝(SD487)で破壊されている。南北棟建物(SB498)の南雨落溝は西へのびる。

8・8 C地区の遺構検出をほぼ終了。Q地区の東部から遺構の検出を開始。東端近くで南北溝(SA505の西雨落溝)を検出。この南北溝のすぐ東は南北築地(SA505)か。

8・9 R地区の中央部東側付近で掘立柱の掘形群を検出したが、建物にはまとまりにくい。Q地

区の南北溝(SA505の西雨落溝)は北端で西北にまがる。この南北溝の東3.5mに別の南北溝(SA505東雨落溝)も検出。両溝の間が築地(SA505)になるものと推定。

8・10 Q地区の北部で検出した黄褐色粘土質の地山は、南に低く傾斜し、この斜面、すなわち低地の岸には大きな礫が散在する。あるいは池か。低地の整地土上で根石様の玉石群(礎石建物SB520の根石)を検出。

8・11 R地区の北部に南北棟建物(SB523)がある。梁行2間。Q地区の、根石様の玉石をともなつた柱穴群は東西棟建物(SB520)で、身舎内部に付設構造物(SX521)をともなっている。

8・12 R地区の南北棟建物(SB523)の規模判明(4間×2間)。その北に4間分の東西柱穴列(SA526)がある。Q地区の南北築地(SA505)の東雨落溝は南へ続く。

8・13 R地区の南北築地(SA505)の東雨落溝付近は多量の瓦が堆積している。

8・17 R地区の南北築地(SA505)上で掘立柱の掘形(SB502の西廂)を検出。

8・18 R地区西南隅の南北棟(SB502)の西廂北第1柱穴の北で、南北築地(SA505)を横断する木製の暗渠を発見。暗渠は南北築地の西雨落溝と交叉してさらに西へ開渠となって流れる。南北棟建物(SB502)を建てるにあたって南北築地(SA505)の改築があったのか。

8・19 R地区西南隅の南北棟(SB502)を完掘。5間×4間の規模で東・西に廂が付く。この建物の南妻柱付近以南は地山が高く、以北は厚い整地土。C地区で検出した斜行溝(SD503)はこの地山と整地土との境界まで追跡できた。

8・20 R地区で東西築地(SA488)の西延長部分を検出。北からくる南北築地(SA505)と直角に連なる。東西築地の西端近くで門(SB489)とみられる柱穴2カ所検出。

8・21 R地区の東西築地(SA488)の南雨落溝は西流し、C地区の東西溝(SD487)に連なる。門(SB489)の雨落溝には玉石を敷いている。

8・22 C・Q・R地区遺構検出終了。清掃作業。

8・23 C・Q・R地区の清掃。

8・24～25 写真撮影。実測準備。P地区の耕土除去開始。

8・27～9・4 実測

9・1 P地区の床土除去。床土は薄く、ただち

に地山となる。南から遺構検出開始。南部で東西柱穴列(東西棟建物SB540の南側柱)を検出。

9・3 P地区の東西棟建物(SB540)は、7間×2間ほどか。身舎内部に付設構造物(SX541)の柱穴がある。

9・4 P地区の東西棟建物(SB540)は東へ連続し、桁行10間以上、東は調査地域外にのびる。

9・5~15 Q・R地区中央の整地土の部分に、南北約45mのトレンチを入れ、内部の状況をさぐる。深さ約2m、南・北両岸は玉石で護岸してお

り、苑池(SX500)かとおもわれる。

9・17 R地区の東西築地(SA488)・南北築地(SA505)付近の細部検討。

9・18 R地区の通称一条通北側にトレンチを入れ、1954年発掘調査で検出した内裏北面築地回廊の遺構と今回の調査の遺構との関係を追う。

9・19 R地区の通称一条通のトレンチで、北面築地回廊(SC060)の西端を確認。

9・20~24 清掃作業・写真撮影・実測。

9・27~11・27 埋めもどし。調査終了。

B 第11次発掘調査

6AAO区L・N・O地区 6ABB区A・B地区

1962年11月28日~1963年6月20日

11・28~12・7 耕土除去。

12・8~17 地区設定、床土除去。

12・18 N地区の南から遺構検出開始。築地回廊の柱穴(SC060北側柱列)と凝灰岩切石の北雨落溝とを検出。

12・20 西のR地区南縁(第10次調査)で検出した東西柱穴列(SA486)の東延長部13間分を確認。池(SX500)の南岸を検出。

12・21 東西柱穴列(SA486)の北で、東西築地(SA488)を検出。N地区西端で、東西築地(SA488)上に東西にならぶ2個の柱穴を検出し、南・北雨落溝ぞいに玉石のならば状況を発見。おそらく門(SB575)であろう。N地区遺構検出終了。

12・22 O地区の南と北から遺構検出開始。南半で、南北棟建物(SB590)の南妻部分を検出。柱穴には根石をともなっている。北部で池(SX500)の北岸を検出。東端に土壙(SK609)があり東の未調査地域にのびている。西寄り、南北棟建物(SB600)の柱穴を検出。根石をともなう。東寄りにも柱穴列(南北棟SB585)。

12・24 O地区南半の南北棟建物(SB590)は3間×2間と判明。東端の南北柱穴列(SB585)13間分(うち3穴は後にこわされている)を検出終了、塀と考えた。O地区の遺構検出終了。L地区の南から遺構検出。先にP地区で西半分を検出した東西棟建物(SB540)の南側柱列の柱穴確認。

12・27~2・12 作業員賃金アップ要求し、交渉決裂。ストライキ突入、作業休止。

12・13 ストライキ解決。L地区の遺構検出再開。東西棟建物(SB540)の東半部を確認。桁行18間の長い建物となる。東寄りに東西柱穴列(SA631)・南北柱穴列(SA630)があるが、建物にはまともでない。L地区の遺構検出終了。6AAB区A地区の北から遺構検出開始。ほとんど全面が池(SX500)を埋めた整地土である。

2・14 A地区の北部中央に根石群4カ所(南北棟建物SB555)検出。東寄り、柱穴2個を確認。

これにも根石がある。Q地区(第10次調査)で検出した東西棟建物(SB520)の西妻の柱穴か。

2・15 B・C地区も遺構検出開始。A地区の根石群の建物(SB555)を追う。南北棟で梁行2間、身舎の棟通りにも柱があるらしい。東西棟建物(SB520)は、5間×2間、身舎の南と東とに廂がつくらしいが、西妻中央柱は検出できない。C地区は床土下がただちに地山となる。C地区(第10次調査)で南妻柱列を検出した南北棟建物(SB498)を北に追う。C地区とA地区、それぞれの東端で、池(SX500)の南岸・北岸が顔を出す。A地区の遺構検出終了。

2・18 B地区で、A地区から続く南北棟建物(SB555)の桁行8間分を検出。2地区の西縁、現在の県道に沿ってバラ敷敷きが南北に続く。

2・19 A・B地区の南北棟建物(SB555)は9間×2間と判明。その南端に一部重なって小柱穴からなる3間×3間建物(SB550)を検出。C地区(第10次調査)から続く南北棟建物(SB498)の北妻柱を検出。5間×2間となる。これで6ABB区の遺構検出をほぼ終了、B地区から清掃開始。

2・20 A地区西寄り、南北柱穴列(SA570)を検出。A・B地区清掃。

2・21 写真撮影。実測準備。

2・22~25 実測

2・26 実測。細部検討。池(SX500)の南岸を検出開始。

2・28~3・7 池(SX500)の埋土にトレンチを入れ、岸と底の状況を調査、写真撮影、実測。

3・8 6ABB区から東方にのびる池(SX500)はいままで苑池と考えてきたが、現在の平城天皇陵を後円部とする前方後円墳の周濠の一部と推定するにいたる。6ABB・6AAO両区で検出した「池」は、前方面前面の周濠にあたり、6ABB区A地区の東北隅は前方面西南隅に相当する。小字名をとって市庭古墳と命名。

3・9~6・20 埋め戻し。調査完了。

C 第13次発掘調査

6AAO区C・D・F・H・I・K地区 6AAB区U地区

1963年8月2日～10月9日

8・2 C地区の南から遺構検出開始。浅い溝や土器を埋没した小さな土壌があるが、顕著な遺構はない。

8・3 C地区は小溝・小土壌が散在するのみ。

8・5 C地区西部で、小規模な南北棟建物(SB845)の東側柱列・南妻柱列の柱穴を検出。

8・6 C地区西部の南北棟建物(SB845)の桁行5間分を確認。C地区西北隅で市庭古墳周濠(SX500)の東岸を確認。D地区の南から遺構検出開始。東端でC地区で検出した古墳周濠東岸の南延長部分を検出。

8・7 D地区の古墳周濠埋土上で遺構追求。瓦を含む大きな土壌があるほかは、さしたる遺構はない。U地区の西から遺構検出開始。西南隅に柱穴列(南北棟建物SB805東側柱)あり。この地区では地山直上に木炭および多数の遺物をふくむ暗褐色土が厚く堆積しており、この土層を排除した地山面で遺構を検出する。

8・8 U地区の南北棟建物(SB805)の北妻柱列の柱穴を検出。梁行2間と判明。南妻柱列は南の民家の下にはいる。この南北棟建物(SB805)の北半に重複して、東西棟建物(SB808)がある。さらに北にも柱穴がある(南北棟建物SB815)がまだ建物としてまとまらない。その柱の掘形は、U地区東北隅の土壌(SK820)を切っている。

8・9 C地区の西端で東側柱を検出した南北棟(SB845)の西側柱をD地区東端で検出し、5間×2間と判明。U地区の東西棟建物(SB808)は3間×2間と判明。その北東に柱穴群がある(東西棟SB765)。

8・10 D地区の中央S20地点で土壌(SK870)を検出。中から多数の瓦・土器出土。U地区の西北部の柱穴は、南北棟建物(SB815)。桁行5間まで確認したが、さらに、北調査地域外までのびる。その東U地区北半に東西棟建物(SB780)を検出。またこの建物(SB780)の北廂に重複して東西棟建物(SB795)南側柱列の柱穴5間分を検出。これはSB780より古い。U地区中央の東西棟建物(SB765)は北に廂をもつ。U地区南端で東西柱列2列(東西棟建物SB710・SB708の各北側柱列)を検出。

8・12 U地区の東半は地山の面が深くなり、茶褐色の砂質土(厚さ30—50cm)が堆積する。U地区中央の東西棟建物SB765は5間×2間と判明。また、北に建つ東西棟建物(SB780)は4間×2間の身舎の四周に廂をもつことを確認。U地区東半、上記の東西棟建物(SB780)の東端に重複して南北柱穴列(南北棟建物SB730)6間分を検出。

D地区では土壌(SK870)の西北に接し3間×2間の南北棟建物(SB875)を検出。D地区の北端で東北～西南に斜行する溝(SD890)を検出。

8・13 U地区東半の建物(SB730)の西廂と西側柱列7間分を検出して南北棟建物と判明。U地区北端の東西棟建物(SB795)の柱穴を東西6間分検出。U地区北部の建物3棟の変遷順(SB795→SB730→SB780)を重複関係から確認。D地区北部の斜行溝(SD890)を発掘。遺物はほとんどない。斜行溝(SD890)の南側に柱穴(SB875)を検出。

8・14～15 盆のため作業中止。

8・16 U地区東半部は礫をふくむ茶褐色の砂質土がひろがっている。南半ではこの面で、北半ではこの土を除いて遺構を探索し、2棟の建物(SB710・SB708)を東に追求。U地区東半の南北棟建物(SB730)の南妻柱列を検出。D地区を清掃。

8・18 U地区の東半部に堆積する礫を含む茶褐色砂質土は旧地表であることを確認。上面に木炭と遺物を含んだ堆積土が厚い。北端の東西棟建物(SB795)の東妻柱列の柱穴2個を検出、桁行7間と判明。U地区東半の南北棟建物(SB730)の東廂を検出、6間(以上)×4間で東西に廂をもつ建物と判明。この南に井戸(SE715)を検出。

8・19 U地区東半の南北棟建物(SB730)の南に重複して柱穴(南北棟建物SB717)がある。6AAO区I地区の南から遺構検出開始。

8・20 U地区東端で築地痕跡とみられる南北に続く高まり(SA705)を検出。U地区南端の2棟(SB710・SB708)はそれぞれ桁行7間、5間と判明。I地区の南端で内裏築地回廊(SC060)北側の礎石の根石9カ所と雨落溝とを検出。

8・21 U地区の南北築地(SA705)の寄柱穴を検出。北半のものほど保存状態が良好。なお、築地の西側の雨落溝の位置にある溝は新しいもので築地と無関係と判明。築地の東限を知るため東の畦を3カ所切ったが、築地東半は後世、水田化に際して垂直に立ち切られ破壊されており、東縁は遺存していないことを確認。

8・22 U地区の南北築地(SA705)の寄柱2列11間分を確認。清掃。I地区の内裏築地回廊(SC060)の凝灰岩切石溝北側石に接して北にひろがるバラスをはがして遺構を探索。西部で東西柱穴列(SA486)を検出。そのすぐ北に接して東西溝(SD487)を検出。

8・23 U地区清掃。I地区の柱穴(SA486)を東に追求。東西溝の中央部に、北からの溝(SD890)が直角にまじわる。この南北溝の底は東西溝

(SD487)の底より浅いが、合流点以西では東西溝(SD487)と連続しており、両者に共通する埋土(灰色砂質土)がみられる。いっぽうこの合流点以東の東西溝(SD910)は、合流点以西の東西溝(SD487)よりも古く、埋土は灰褐色土。

8・24~9・4 C・D・U地区写真撮影,遺構実測。

8・24 I地区の南北溝(SD890)の東,古い方の東西溝(SD910)の北に石敷(SX920)を検出。

8・26 I地区の石敷(SX920)を追求。南北幅3mでI地区東端まで約18mつづいている。石敷の北には東西溝(SD922)がある。U地区の南から遺構検出開始。新しい方の東西溝(SD890)の西延長部分を検出。

8・27 I地区の石敷(SX920)北の東西溝(SD922)発掘。これは南北溝(SD890)より古い。I地区東北隅に大きな窪み(SK925)がある。C・D地区実測開始。

8・28~29 降雨のため作業中止。

8・30 K地区の北から遺構検出開始。東北隅に柱穴列2列(SB1085)がある。降雨のため午後作業中止。

8・31 降雨のため作業中止。

9・1 K地区の柱穴列は東西棟建物(SB1085)で3間以上×4間,南北に廂がつく。その4m南に柱穴列2列(東西棟建物SB1000)があり,またこの両者(SB1085・SB1000)と重複して柱穴列1列(南北棟建物SB1080),また後者(SB1000)と重複する柱穴列(南北棟建物SB960)を検出。この建物(SB960)は別の2棟(SB1000・SB1080)のいずれよりも新しい。

9・2 K地区北半の東西棟建物(SB1000)の東妻柱列を検出し,桁行は7間分まで検出。さらに西へのびて道路の下に入る。南北棟建物(SB960)は桁行4間分まで追求。東西棟建物(SB1000)のほぼ中央の東南方向に古墳周濠の北岸を検出。以南は周濠内の埋土で石も多く,柱穴の検出は困難となる。

9・3 U地区の遺構実測。K地区の南北棟建物(SB960)は桁行7間分まで追求。東西棟建物(SB1000)には南にも廂がつく。あらたにこの東西棟建物(SB1000)の南半に重複する2列の東西柱穴列(東西棟建物SB1015)を6間分検出。この南1.5mに細い東西溝(SD1020)があるが,これはSB860より新しい。U地区の遺構実測完了。

9・4 K地区の南北棟建物(SB960)の桁行9間分を確認。さらに南につづくK地区中央の長い建物は東西棟(SB1015),6間以上×3間で南北に廂がつく。これに重複し2列の柱穴列(東西棟建物2棟SB980・SB970)をあらたに検出。

9・5 古墳周濠の埋土上面には全体に木炭・瓦と土器を含む褐色土が厚く堆積している。昨日新

たに検出した柱穴列は,東西棟建物(SB980)で3間×2間,東西棟建物(SB970)5間×2間と判明。D地区の土壙(SK870)を発掘。深さ50cmで灰色粘土となる。これにも遺物をふくむ。

9・6 K地区では,長い南北棟建物(SB960)の柱穴を検出し,桁行11間と判明。この西2mに南北柱穴列(堀SA950)を検出。I地区で検出した東西堀(SA488)の東延長部分にとりつく可能性がある。F地区の北から遺構検出開始。北端に野井戸があり,側板は,縦板をつかう。井戸の東南に東西柱穴列5間分(SB1135)を検出。ほかに小柱穴(建物SB1165・SB1140)がある。D地区の土壙(SK870)から木簡出土。「左衛士府」と記すものがある。

9・7 U地区の井戸(SE715)発掘。墨書土器出土。遺物は平安時代にぞくしている。F地区の建物(SB1135)は東西棟で5間以上×2間。東はさらに調査地域外につづく。これに重複した遺物(SB1140)がある。F地区の中央部で南北棟建物(SB1055)を検出。身舎は梁行2間で西に廂がつく。F地区からK地区にまたがる建物(SB1085)は東西棟,5間×4間で,南北に廂をもつことが判明。D地区の土壙(SK870)で木簡出土続く。

9・8 F地区の南北棟建物(SB1055)は桁行7間と判明。K地区で検出した南北棟建物(SB1080)の東側柱列の柱穴を検出し,5間×2間と判明。K地区では古墳周濠整地土を除去し,東西棟建物(SB1000)の南廂柱穴列検出。梁行5間と推定。

9・9 U地区の西北隅の井戸(じつは土壙SK820)発掘開始。D地区の土壙(SK870)の発掘ほぼ完了。F地区の遺構検出完了。H・K地区の遺構検出開始。

9・10 U地区の井戸(土壙SK820)の炭化層を発掘。木簡出土。K地区の東西棟建物(SB1000)の南入側柱列の柱穴を検出。H地区の北側で古墳周濠の北岸を検出。I地区で検出した南北溝(SD890)は,H地区南西部でまがり南西~東北の方向をとる。さきにD地区で検出した斜行溝(SD890)と結ぶものと推定。

9・11 U地区の井戸(土壙SK820)を発掘。D地区の土壙(SK870)を実測。H地区中央部で土器を含む東西溝(SD990)を検出。溝は東の方形土壙(SK989)にとりついておわり,西端は斜行溝(SD890)に達する。堆積土中の遺物は平安初期のものとして推定。K地区の東西棟建物(SB1000)の南入側柱列の柱穴を完掘し,7間以上×3間で四周に廂がつくことを確認。

9・12 U地区の井戸(土壙SK820)の炭化層発掘。D地区の古墳周濠に南北トレンチを入れる。

9・13 U地区の井戸(土壙SK820)発掘続行。木簡出土。D地区の古墳周濠東岸検出。傾斜面全

面に葺石をふいている。濠内に黒色有機質土が堆積しており、樹木片、埴輪片を検出。

9・14 U地区の井戸(土壙SK820)の発掘続行。地山面下130cmまでにいたる。木簡出土。東端の南北築地(SA705)の下に瓦積み暗渠を検出、実測。D地区の古墳周濠内排水作業。写真撮影。遺構実測。北端より埋めもどし。H・I・K地区清掃。また未検出だった柱穴を確認。東西棟の建物(SB1015)は6間以上×3間で南側に廂がつくことを確認。東西棟建物(SB1085)の西妻中央柱穴を発掘。5間×4間、南・北両側に廂つき。南北棟建物(SB1055)の南妻中央柱穴を発掘。午後2時より現地で発掘成果の説明会。

9・15 U地区の井戸と推定してきたのは、土壙

(SK820)であることを確認。SA705撮影。D地区の古墳周濠東縁を実測。

9・16 U地区の土壙(SK820)発掘。K地区清掃作業。D地区の埋めもどし。

9・17 U地区の土壙(SK820)は、深さ140cmにたつする。木簡多数検出。

9・17~10・8 F・H・I・K・U各地区清掃作業、写真撮影、遺構実測。

9・18~21 U地区土壙(SK820)発掘続行。北東隅で地表下160cmで底に達する。西壁を確認、方4mの土壙となる。

9・22~28 K地区の土壙(SK820)発掘。土壙の土層断面実測。写真撮影。

10・5~10・9 埋め戻し、発掘調査終了。

D 第20次発掘調査

6AAO区F・G・M地区

1964年7月20日~11月11日

7・20 耕土除去。

7・24 地区設定。

7・27 M地区の床土除去。

7・28 M地区の南北両側から遺構検出開始。北側では、地山面で遺構を追求。さきに西のO地区(第11次調査)の東端で検出した柱穴に対応する柱穴3個を確認(南北棟SB585)。この掘立柱の掘形と重複して根石をもつ掘形がある。この方が新しい。M地区の南側では古墳の周濠(SX500)を埋めたてた整地土上面で遺構を検出。根石状のバラス群が点在するが、掘形は確認できない。

7・29 M地区の東北部で南北柱穴列(SA630)3間分を検出。M地区南半で穴溝を多く検出。

7・30 M地区の中央部で、東西に柱穴3個(SB2225南妻柱列)を検出。その東にK地区(第13次調査)で検出した東西棟建物(SB1015)の西妻柱列の柱穴を検出。これは南廂が付き8間×3間と判明した。西のO地区(第11次調査)で検出した土壙(SK609)の東延長部分はM地区の東端まで続いている。

7・31 M地区北半で古墳周濠(SX500)の北岸を清掃し、葺石の残存を確認。東西に長い土壙(SK609)の北半の埋土(褐色粗砂)は奈良時代にぞくするが、南半の埋土(黒色粘土)は染付を包含し、時代が下る。M地区南部で南北棟建物(SB2181)の桁行3間分の柱穴を検出。

8・1 さきに西のO地区(第11次調査)で検出し、塀と考えた柱穴列に対応する東側柱列の一部をM地区西部で検出(南北棟建物SB585)。M地区北部の写真撮影。

8・3 M地区の南半で南北柱穴列(塀SA630)を検出。柱間は不揃。M地区南半で建物(SB585)の南妻柱穴を検出、これが南北棟13間×2間であ

ることを確認。この建物(SB585)東側柱列の柱穴に重複して南北柱穴列(南北棟建物SB2190西側柱列)を検出。

8・4 M地区南半の遺構検出、5間×3間の南北棟建物(SB2181)、2間×1間の南北棟建物(SB2190)。また前者の北に3間×2間の南北棟建物(SB2225)の存在を確認。

8・5 M地区清掃。写真撮影。実測準備。F地区で床土除去。

8・6 M地区実測開始。F・G地区の床土除去。

8・7 M地区実測、G地区床土除去。

8・8 M地区実測終了。細部調査にかかる。G地区床土除去。

8・11 M地区細部調査終了。埋め戻し開始。G地区床土除去終了、南から遺構検出。

8・12 G地区南端で内裏北面築地回廊(SC060)北側柱列の柱穴と凝灰岩切石づくりの北雨落溝の一部とを検出。溝埋土から三彩の鬼瓦出土。瓦の出土が多い。

8・13 内裏北面築地回廊(SC060)の雨落溝を発掘。南側石はほとんど遺存しない。遺構面の上に瓦・土器を多量に包含する灰褐色砂土がのっている。

8・15 G地区南端近くで東西柱穴列(塀SA486)の一部を検出。

8・17 東西柱穴列(SA486)を追求。この柱の掘形を切る小さな南北溝(SD2084)がある。

8・18 G地区西寄りの東西築地(SA488)上で寄柱の南列かとみられる小柱穴を検出。東西築地(SA488)の南側の小溝(SD2090)の底から、千鳥に小杭穴列(SX2086)が並ぶが、発掘地域の東端までは続かない。

8・19 東西築地(SA488)の寄柱穴北列を検出。

発掘地域東部ではこの寄柱穴は検出できない。

8・20 G地区東部では東西築地(SA488)の北沿いに東西溝(SD2093)がある。この溝は西北におれて西半部にある窪み(SK2100)にたっている。なお、この東西溝(SD2093)はこれと交叉する斜行溝(SD2084)より新しい。発掘地域の西端にある土壙(SK2101)の埋土上層を発掘。M地区の埋め戻し終了。

8・21 G地区東部の古墳周濠埋土の整地には遺構はない。大きな土壙(SK2100)の東に接して南北溝(SD2110)がある。この南北溝(SD2110)および以西では瓦の出土量が著しい。

8・22 南北溝(SD2110)の瓦を発掘、この下には木質をふくんでいる。

8・24 G地区の南北溝(SD2110)以西の北にも整地がある。

8・25 大土壙(SK2100)の北に、H地区(第13次調査)で検出した建物(SB930)の東妻柱列を検出し、5間×2間の東西棟建物と判明。土壙(SK2100)の下層を発掘。

8・26 G地区の西寄りの中央で、市庭古墳前方部の東南隅を検出。

8・27 西のH地区(第13次調査)で検出した斜行溝(SD890)の東延長部分を検出。斜行溝(SD890)以南にはかなりの礫があるが、整然とした石敷ではない。

8・28 斜行溝(SD890)の検出続行、西寄りの部分で溝をこわして中世の井戸がある。

8・31 G地区の斜行溝(SD890)の東延長部を検出。東部で井戸(SE2128)を検出。井戸の周囲の溝(SD2126)は斜行溝(SD890)よりも古い。

9・1 井戸(SE2128)の北で土壙(SK2130)を検出。井戸の周囲の溝(SD2126)の北辺より新しい土器が多い。F地区の発掘を開始。

9・2 井戸(SE2128)の周囲の溝(SD2126)はこれをかこんで方形にめぐっていることが判明。G地区で土壙(SK2108)を発掘。遺物はほとんど出土しない。

9・3 G地区の南北溝(SD2110)は井戸四周の溝(SD2126)より新しいことを確認。F地区で3間×2間の東西棟建物(SB2140)と井戸(SE2139)を検出。

9・4 F地区(第13次調査)で検出した東西棟建物(SB1135)の東3間分を検出し、7間×3間、東・西・南の3面に廂が付くことが判明。この建物(SB1135)東半の内側に重なって3間(以上)×2間の東西棟建物(SB2170)を検出。これは前者(SB1135)より新しい。

9・5 F地区北端で土壙(SK2159)を発掘、遺物なし。井戸(SE2128)の四周の溝(SD2126)の北に接して南北柱穴列(東西棟建物SB2131)を検

出。G地区東北隅整地を除去して遺構検出。

9・7 F地区の整地面下から建物(SB2131)の柱穴を検出し、4間以上×2間の東西棟建物と判明。さらに東の未発掘地域につづく。

9・8 F地区東半で遺構を探索したが、明確なものとは検出できず。G地区南半の大土壙(SK2100)の北限を検討。

9・9 G地区の井戸(SE2128)の掘形を検出。G地区を北側から清掃。

9・10 G地区南北溝(SD2110)の中央部にある土壙(SK2111)を発掘。瓦出土。

9・11 G地区南端で南北溝(SD2084)の方が、内裏北面築地回廊(SC060)にともなう凝灰岩切石作りの雨落溝よりも新しいことを確認。清掃。写真撮影。

9・12 写真撮影。実測準備開始。

9・14~15 実測準備。

9・16~19 実測。

9・21 F地区西端の東西棟建物(SB2170)の東妻柱列を検討し3間×2間と確認。井戸(SE2139)を発掘。土層の検討開始。

9・22 土層検討。

9・24~25 降雨のため作業中止。

9・26 排水。F地区東半の東西棟建物(SB2131)東妻柱列検出のための整地土をはがす。G地区北半の土壙(SK2119)発掘。

9・29 東西棟建物(SB2131)東妻柱列検出のため排土作業続行。土壙(SK2119)発掘終了。

9・30 F地区東西棟建物の(SB2131)東妻柱列のうち、北端の柱の掘形を検出。G地区南半の大土壙(SK2100)の中、その西北部にある土壙(SK2105)を発掘。檜皮の堆積層の下底部から指叉状の木製品が出土。南北溝(SD2110)は南半で、次第に幅せまいうえ、形も不明瞭となり、東西築地(SA488)沿いに西にまがって、大土壙(SK2100)と一体となる。内裏北面築地回廊(SC060)の柱穴の細部調査。

10・1 G地区南半、大土壙SK2100の中の西端部にある土壙(SK2101)を発掘。檜皮堆積層から木筒出土。F地区の井戸(SE2128)を発掘し、井戸粹取上げ。各材の下端に墨書があることを確認。

10・2 G地区南半の土壙(SK2101)の発掘続行。G地区東北部の拡張部分の実測。

10・3 G地区南半の土壙(SK2101)発掘続行。市庭古墳前方部東南端部分の周濠(SX500)を発掘。黒色粘土の堆積が厚い。

10・4 G地区で土壙(SK2101)・古墳周濠(SX500)の発掘続行。F地区の埋め戻し開始。

10・6 古墳周濠(SX500)発掘。東部でほぼ底に達する。G地区土壙(SK2101)の土層実測。写真撮影。埋め土は6層にわかるが、大別すれば

上層と下層(木簡をふくむ)とに2分される。
10・7 G地区の土壙(SK2101)の発掘を終了。ひき続いて実測を終了。
10・8~9 秋祭りのため作業中止。
10・10 G地区の大土壙SK2100の中にある別の土壙(SK2102)を発掘。古墳周濠(SX500)の発掘を続行する。
10・12 G地区の土壙(SK2102)を発掘。北部は木材片が多く、南部には薄い削り片が多く出土。古墳周濠(SX500)の発掘。前方部南部上面は、破壊が著しいため、東側の基底部から検出開始。F地区埋め戻し終了。
10・13 G地区の土壙(SK2102)土層断面の撮影。
10・14 G地区の土壙(SK2102)の発掘続行。遺物は、南部に多く検出される。古墳周濠(SX500)の発掘。植物質を包含する黝黒色粘土を除去。遺存する墳丘上部はかなり、破壊されている。
10・15 G地区の土壙(SK2102)発掘終了。撮影

実測終了。やはり大土壙SK2100内にある、北部の土壙(SK2107)の発掘開始。堆積土は3層にわかれるが上の2層は檜皮をふくみ腐蝕が甚しい。古墳周濠(SX500)の発掘をほぼ終了、市庭古墳前方部東南端の全容がほぼ現れる。
19・16 G地区の土壙(SK2107)の発掘続行、あらたに、やはり大土壙(SK2100)中にある2土壙(SK2103・SK2104)を発掘した。各土壙を撮影、実測完了。市庭古墳前方部の葺石を検出する。拳大の石を用いた部分とやや小形の石を用いている部分とがある。
10・17 築地の細部調査。内裏北面築地回廊(SC060)の北雨落溝凝灰岩底石の実数値検討。G地区の土壙群・東西築地(SA488)などを撮影。
10・19~27 市庭古墳葺石の実測。G地区埋め戻し開始。
10・28~11・10 G地区埋め戻し。
11・11 終了写真撮影。

E 第82—7次調査

1972年1月22~28日

6AA0区B地区

佐紀東町川村正治氏申請の史跡現状
変更届(住宅改築)による事前調査

1・22 改築予定地に東西7.7m、南北7mの発掘地域を設定。表土(30~40cm)および旧耕土(10~15cm)を除去。

1・23 遺構検出開始。西半は市庭古墳周濠の埋土。中央南北に周濠東岸の玉石が散乱した状況でのこっており、ほぼ輪郭をつかむ。北西隅付近に浅くせまい東西溝・南北溝があるが後世のもの。東西に横切る溝は、第13・20次調査検出の斜行溝(SD890)の延長部分(幅70m、深さ40m)。さらに東の未調査地域に続いている。遺物ほとんどなし。東端に南北溝、東南隅に別の斜行溝。ともに奈良時代にぞくするものらしいが遺物はない。

1・24 実測。

1・25~28 埋め戻し。斜溝には碎石をいれる。

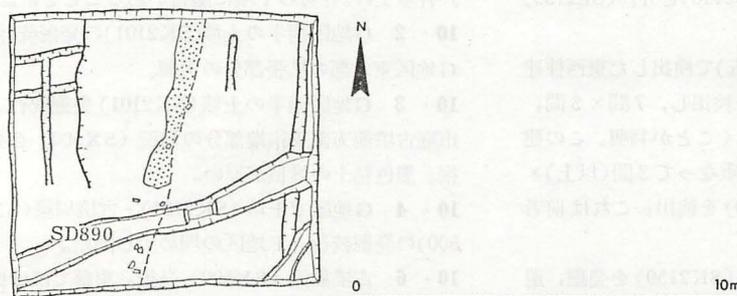


Fig. 7 第82—7次調査地域実測図

F 第95—6次調査

1975年8月25~26日

6AA0区A地区

佐紀東町田中友一氏申請の史跡現状
変更届(車庫改築)による事前調査

8・25 改築予定地に東西1.8m、南北6.8mの発掘地域を設定。表土・旧耕土を除去。市庭古墳周濠部分に相当しておりその埋土上で遺構検出開始。北半で東西方向に黄色粘質土の高まりを検出。その北側部分は、調査地域外に続く。側溝などは確認できないが、東西築地(SA8220)と認め、内裏北外郭の北面築地となる可能性を考える。ただし後日の検討で、西の第11次調査検出の塀(SA630)北端部の状況等を堪案し、この考えを留保することにした。築地の南で、土壙(SK8221)を検出。その東半は、東の未調査地域に連続している。土器・瓦若干出土。他に築地上面に重複して後世の小溝と小穴がある。写真撮影の後、実測。

8・26 埋め戻し。

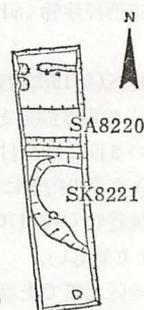


Fig. 8 第95—6次調査地域実測図